

本草・植物学者から篤農家、保護活動家まで

# 植物文化人物事典

—江戸から近現代・植物に魅せられた人々

大場秀章 編

A5・640頁 定価(本体7,600円+税) ISBN978-4-8169-2026-4 2007年4月刊行



本草学の時代から現代まで  
植物に関わる業績を残した  
1,157人を集大成

■近世から現代まで、植物に関して功績を残した人物を調べられる人物事典です。植物学者、農業技術者、文人、植物画家、写真家、園芸家など様々な分野の1,157人を収録しました。

■各人物には、生没年月日・肩書、略歴・活動歴とともに、著作や伝記・評伝、参考資料などの文献情報も掲載、詳しい人物像がわかります。

■「人名索引」「事項名索引」付き。

编者プロフィール 大場 秀章 おおば・ひであき

東京大学名誉教授 東京大学総合研究博物館特任研究員  
理学博士(東京大学)。日本植物学会、日本植物分類学会所属。  
専門:植物系統・分類学、生物地理学、日本植物学史、ボタニカルアート

昭和18年東京生まれ。東京農業大学農学部農業拓殖学科(昭和44年)卒。昭和45年東北大学理学部助手、48年東京大学総合研究資料館助手、55年東京大学理学部講師を経て、56年助教授、のち総合研究博物館教授。63年には中国コンロン山脈周辺での中国総合科学調査に日本人として初参加した。ベンケイソウ科の植物の系統進化、コンロンとヒマラヤの植物相比較、日本植物学史の研究を続けている。著書に「江戸の植物学」「花の男シーボルト」「大場秀章著作選1 植物学史・植物文化史」など。平成19年第15回松下幸之助花の万博記念賞受賞。

## 主な収録人物

- 【本草・博物】 飯沼慾齋(本草学者、「草木図説」著者)  
伊藤伊兵衛(植木屋)  
宇田川裕庵(洋学者)  
小野蘭山(本草・博物学者)  
貝原益軒(儒学者、博物学者)  
賀来飛霞(本草家、医師 小石川植物園取調掛)  
平賀源内(本草学者、戯作者)  
松岡恕庵(本草・博物学者)  
水谷豊文(本草学者)
- 【植物】 シーボルト(医師)  
早田文蔵(東京帝国大学教授)  
牧野富太郎(植物学者 東京帝国大学講師)  
松村任三(植物学者 東京帝国大学名誉教授)  
三好学(植物学者 東京帝国大学名誉教授)
- 【菌類】 南方熊楠(生物学者、民俗学者、人類学者)
- 【薬学・漢方】 華岡青洲(麻酔薬を開発した医師)  
津村重舎(津村順天堂創立者)
- 【林学・森林】 本多静六(森林学者 東京帝国大学名誉教授)
- 【農業・園芸】 金子善一郎(サカタのタネ社長)  
宮崎安貞(農学者)
- 【絵画・写真・工芸】 秋山庄太郎(写真家 日本広告写真家協会会長)  
伊藤若冲(画家)
- 【文学】 宮沢賢治(詩人、童話作家)  
田中澄江(劇作家、小説家)
- 【その他】 安達潮花(華道家元)  
尾崎行雄(ワシントンに桜を贈った明治の政治家)  
佐伯伝蔵(山小屋主人・高山植物保護)  
…など1,157人

2014.8

●お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業本部 TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

■書店名	植物文化人物事典 —江戸から近現代・植物に魅せられた人々		冊
	定価(本体7,600円+税) ISBN978-4-8169-2026-4		
注文書	■お名前		 9784816920264

## 牧野 富太郎

まきの・とみたろう

文久2年(1862年)4月24日～

昭和32年(1957年)1月18日



植物学者 東京帝国大学  
講師

幼名は誠太郎。土佐国高岡郡佐川村(高知県高岡郡佐川町)出生。小学校中退。日本学士院会員〔昭和25年〕。理学博士〔昭和2年〕。〔団〕植物分類学 〔園〕朝日文化賞〔昭和11年〕、文化功勞者〔昭和26年〕、東京都名誉都民〔昭和28年〕、文化勲章〔昭和32年〕。

土佐国佐川村で酒造業兼雜貨商を営む家に生まれる。明治5年頃から植物に興味を持ち、家の裏手にある山で植物を採集していたという。7年から佐川村に開校した小学校に通うが、間もなく中退し、10年小学校教師となる。12年教職を退き、高知市に出て漢学塾に学ぶがコレラ流行のため帰郷。この頃、高知師範学校に赴任してきた永沼一郎と知り合い、欧米の植物学について知見を広めた。その他にも「本草綱目啓蒙」の写本などを読み耽り、植物の知識を深めている。14年に第2回内国勸業博覧会見物も兼ねて上京。この時に田中芳男、小野職愨らの知遇を得た。帰郷後は植物採集や標本作りの傍ら、科学啓蒙のための演説会もたびたび開催。17年再び上京し、松村任三・矢田部良吉・大久保三郎から東京大学の植物学教室への出入りを許され、同所の標本や書籍を自由に閲覧する機会を得た。20年田中(市川)延次郎、染谷

作成を企てていた矢田部に疎んじられ、植物学教室への出入りを禁じられたためマキシモヴィッチを頼ってロシアへの渡航を計画するも彼の死去により頓挫。24年家財整理のため一時帰郷し、植物分類学の研究と標本の採集を続ける一方で、音楽会を開くなど西洋音楽の普及にも貢献した。25年に矢田部が罷免されると松村に呼び戻されて帝国大学助手に就任。初任給は15円であったが、標本の置き場の確保や書籍購入など研究に莫大な費用を費やしたうえ、子だくさんのためそれだけでは一家を養うにも厳しく、加えて良家の育ちで鷹揚な性格であったため生活は日増しに困窮し、家賃は滞納、借金もかさみ、時には執達吏の差し押さえに遭うという極貧の生活を送った。頻繁に借金取りにも追われたが、時には妻の寿衛子の機転に助けられたことも少なくなかったという。そんな中で植物研究と図解編纂に全力を集中させ、30年「新撰日本植物図説」を上梓。33年にはかねてから同大学長・浜尾新の依頼で編纂を進めていた大型図解「大日本植物志」第1集を刊行したが、松村との間に齟齬を来たし第4集で中絶となった。この頃から各地の植物採集会に招かれるようになり、42年横浜植物会の創立に当たり講師を務め、44年東京植物同好会ができると会長に推された。45年講師に昇進。大正5年には自らの研究機関誌「植物研究雑誌」を創刊した。同年池長孟の助けで神戸に池長植物研究所が設立され、これまでに集めた標本のうち約30万点を収蔵。さらに教育者・中村春二の経済援助を受けて研究に邁進するが、12年の関東大震災や13年の中村の死などで再び貧窮を極め、寿衛子が待合「今村」を経営するなど内助の功をはかったが一時的な儲けに終わった(昭和3年寿衛子は病死)。14年「日本植物図鑑」を刊行。以後はその学問的業績も高まり、昭和2年には

徳五郎らと「植物学日本における植物誌術を取得して21年に1集を出版、図や記号のマキシモヴィッチ誌はその後も続刊さ

### まきの

### 植物文化人物事典

#### 【著作】

- ◇日本植物志図編 第1巻 牧野富太郎著 敬業社 1891 図版 27cm
- ◇繇糸書屋植物雑誌 明治24-30年 牧野富太郎著 敬業社 1898.12 25cm
- ◇新撰日本植物図説 第1(1, 3-11集), 2巻(1-8集) 牧野富太郎著 敬業社 1899~1903 24cm
- ◇日本植物調査報知 第1, 2集 牧野富太郎著 敬業社 1899, 1900 25cm
- ◇日本禾本莎草植物図譜 第1巻 第2-4集, 第10集 牧野富太郎撰 敬業社 1901~1903 4冊 32cm
- ◇普通植物図譜 第1巻 第1-7集 牧野富太郎校注、東京博物学研究会編 参文舎〔ほか〕 1906 27cm
- ◇草木図説 第1, 2集〈増訂〉 飯沼長順著、牧野富太郎訂 三浦源助 1907~1910 2冊(442, 330p) 23cm
- ◇日本高山植物図譜 第1, 2巻〈再版〉 三好学、牧野富太郎共著 成美堂 1907~1909 2冊 図版 18cm
- ◇野外植物の研究 博物学研究会編、牧野富太郎

- ◇植物一家言一草と木は天の恵み 牧野富太郎著、小山鐵夫監修 北隆館 2000.9 247p 22cm
- ◇牧野植物隨筆(講談社学術文庫) 牧野富太郎〔著〕 講談社 2002.4 211p 15cm
- ◇牧野富太郎自叙伝(講談社学術文庫) 牧野富太郎〔著〕 講談社 2004.4 260p 15cm

#### 【評伝・参考文献】

- ◇近代日本の科学者 第2巻〔牧野富太郎伝(中村浩)〕 堀川豊永著 人文閣 1942 267p 19cm
- ◇牧野富太郎伝 上村登著 六月社 1955 358p 図版 19cm
- ◇名誉都民小伝 東京都 1955 78p 図版 21cm
- ◇牧野富太郎(世界伝記文庫) 佐藤七郎著 国土社 1978.3 221p 22cm
- ◇牧野富太郎—私は草木の精である(シリーズ民間日本学者 4) 渋谷章著 リプロボート 1987.1 239, 4p 19cm
- ◇生物学史論集 木村陽二郎著 八坂書房 1987.4 431p 21cm
- ◇土佐の花—牧野植物園創立30周年記念 高知県 1988.11 118p 27cm

#### ●文献情報

著作と植物文化への貢献がわかる参考資料など